

2021年8月1日



月刊

もぐら通信

2024年2月1日 第135号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ：
迷う事のない迷路を
あなただけの番地に
届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい



安部公房の広場 | | www.abekobosplace.blogspot.jp | 問合せ：takranke2003@yahoo.co.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（21）時間彫刻機製作のための《世界の果て突破方程式》：安部公房……page 10
- 4 周辺飛行（45）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行43・44：正統・藤野君のこと：岩田英哉…page 11
- 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（15）：9。夏目漱石の塔（F+f）と安部公房の塔-(F x f)（1）：岩田英哉……page 20
- 6 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/
 - 1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 26
- 7 ネット・モナド論（19）：7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか：岩田英哉…page 27
- 8 Mole Hole Letter（58）：超越論II（第一回）：岩田英哉…page 34
- 9 サンチョ・パンサを求めて（13）：お注射記念日2 [安部公房のお注射記念日]：岩田英哉……38
- 10 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（16）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：K 親鸞聖人の超越論：岩田英哉…page 44
- 11 Topologyで日本の文化を解説する：内なる境界シリーズ（12）：扇：岩田英哉…page 46
- 12 編集後記…page 47
- 13 編集方針……page 48

The Best Tweets of the Month

Golden Mole
Prize

該当なし

Silver Mole
Prize

該当なし

今月の巽孝之

Takayuki TATSUMI@t2tatsumi-22h

「三田文学」最新号で北米先住民作家トミー・オレンジの『ゼア・ゼア』を書評したが、実はあの長編小説で一番ツボだったのは後半「エドウィン・ブラック」の章で語られる、家が乗っ取られる男フィルの話。あれはまさしく安部公房の短編「闖入者」であり戯曲「友達」ではないか。本書最大の収穫である。

今月の小島秀夫

小島秀夫@Kojima_Hideo・Jun 22

山田正紀先生の初収録短編集「フェイス・ゼロ」いただきました。ありがとうございます。しかし、凄い思い切った装丁！タイトルが横！「MGS」も同じ事やって店頭で営業に怒られた。

子供の頃、僕が影響を受けた日本のSF作家。

安部公房。山田正紀。田中光二。小松左京。平井和正。堀晃。

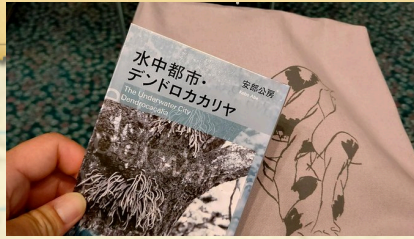
今月のマシュー・シャープ

MONKEY@monkey_info1・Jul 20

【戦時の愛 発売中】この超短篇たちのルーツは、マシュー・シャープが十代の頃に読んだ『Zen Flesh, Zen Bones』という日本の禅師たちが語った物語を集めた本で、一篇がかなり短いもの。好きな日本の作家は川端康成や安部公房、小林一茶、松尾芭蕉。『掌の小説』や俳句など通じるものがありそうです。



もぐら通信



今月の集団一斉ワクチン注射

*Belle°@datsu_kouchiku·Jul 24

モデルナワクチン1回目

待ち時間どんなものか不明だったので文庫本持ってきたけど、なぜ安部公房にしたのか不安が募るっぽうです

今月の田中邦衛

新文芸坐@shin_bungeiza·Jul 3

■レイトショー20:00~

『おとし穴』

謎の男を演じ、不気味な存在感を示した田中は俳優座時代の初舞台が安部作品。俳優座脱退後は「安部公房スタジオ」の旗揚げ公演に参加するなど縁が深い。

#田中邦衛



今月の石の眼とひげの生えたパイプ

ホッタタカシ@t_hotta·23h

50年代の安部公房はダム問題に目を向け、九州の下笠・松原ダム紛争を取材し『事件の背景〜蜂之巣城騒動記』というルポを書き、四国の鹿野川ダムを取材してラジオドラマ『ひげの生えたパイプ』を書いた。その到達点が『石の眼』。ユニークな「推理小説」です。

Quote Tweet

今月の横尾忠則

Toshimi Yoshida@NeverGirls·Jul 22

オリンピック連休始まる前に、横尾忠則展@都現代美術館。展示室と別に、常設ショップのナディッフの奥の柱と壁面に、痛快なヨコオノマスクの『with corona』シリーズ。安部公房や稲垣足穂、寺山修司、小松左京、なども。with安部公房♡

盛林堂書房 @seirindou · Jul 25

【#こんな本あります】

『石の眼』

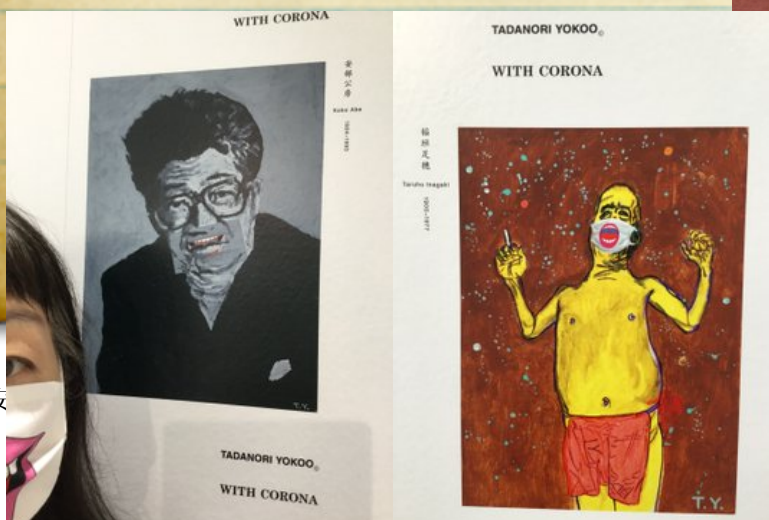
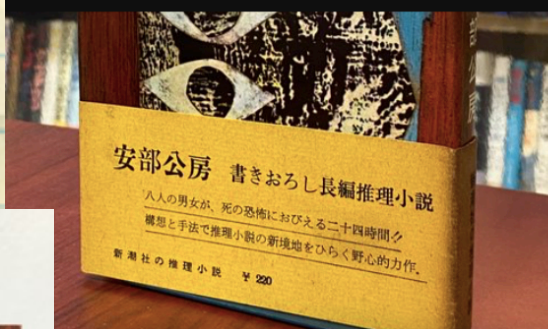
安部公房

新潮社・昭和35年

装幀：玉置正敏

初版・カバー・帯

帯にマケ



安

2003@yahoo.co.jp

今月の第四間氷期

木石岳 / Gaku Kiishi / Asahi (macaroom)@asahism8・Jul 3

中学生ぶりくらいに安部公房の『第四間氷期』読み返してるけどなんて現代的で挑戦的なんだろう。これが日本最初の長編SFだって。

rereading Inter Ice Age 4 by Kobo Abe since when I was a junior high school kid.

今月中島敦

非おむろ@Non_omuro・Jun 20

中島敦と安部公房は本当に面白い。interestingでありながら（というより、あり過ぎて）enjoyでもある。

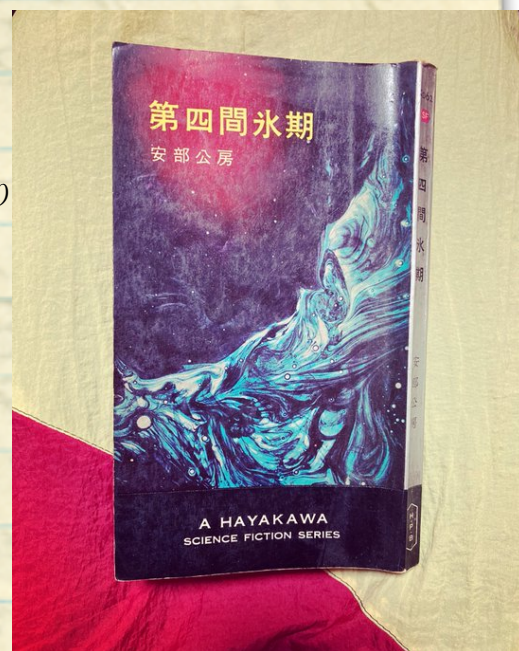
近代文学に触れるにあたり、森鷗外「高瀬舟」

「舞姫」または島崎藤村を筆頭に後期自然主義

文学の何作かを「読まされ、て、

（うーわ、近代文学ってこんなもんか。）

と見切ってしまうのは勿体無い。



今月の燃えつきた地図

魔の山@manoyama12・Jun 14

勅使河原宏『燃えつきた地図』 失踪した男の捜索依頼を受けた探偵。妻やヤクザの弟、会社の部下など怪しげな人物の非協力的態度に弄ばれる…失踪の謎は焦点を結ばず拡散、無意味化し、探偵は自己を失ってゆく…都会の孤独、不条理。シュールな挿話による異化作用。安部公房原作脚本、凝った映像の秀作



もぐら通信

今月の飛ぶ男

ホッタタカシ@t_hotta·Jun 25

参考用に、安部公房の最晩年作『スプーン曲げの少年』、『スプーンを曲げる少年』、『飛ぶ男』、『さまざまな父』を一気読み。創作MEMOを読むと、飛ぶ男が新興宗教の教祖に祭り上げられる展開も構想していたようだ。つくづくオウム真理教事件の前に完成できていたら、と惜しまれる。 #TAP_MTG

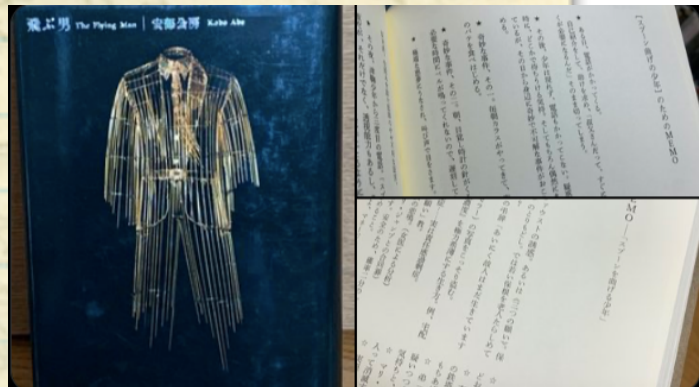
今月のハロルド・ピンター

高梨治 (Osamu Takanashi) @nashishi036·Jun 11

著者からお送り頂いた『ハロルド・ピンター：不条理演劇と記憶の政治学』（奥畑豊・著／彩流社）を読み始める。

ピンターを知るには必読の一冊となりましょう。

記憶劇や政治劇、不条理なピンター劇を観てみたくなりました。まずは翻訳も出ている戯曲も読もうか。安部公房からの絡みで好きな人いるかも



今月の山口果林

Allypapa0629@allypapa0629·Jun 18

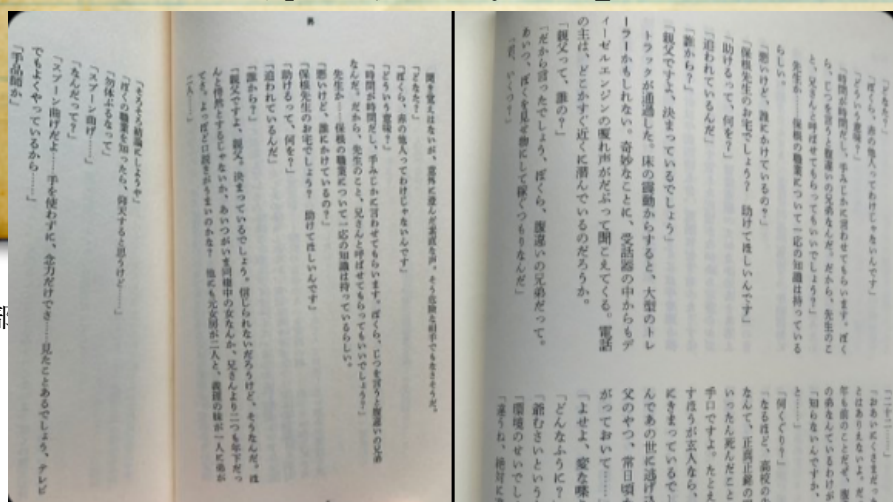
昨日の昼は小田原駅近くにあるいつもの喫茶店(安部公房が山口果林と“密会”してたところね ^^;)でハヤシライスを食べました。ガラッガラ(本気でヤバいと思う……)。前回と違って対面にアクリル板が置いてあったのに、いったんはドン引きしたものの、夫婦だと察してどけてくれました。 #SIGMA #SIGMAfp



今月の愛読者

ホッタタカシ@t_hotta·Jun 25

安部公房の未完の遺作『飛ぶ男』は文庫になっておらず、単行本を古本で入手して読んだ方が多いでしょう。しかし単行本は全編に真知夫人による修正が入った上、原稿の入れ違いが起こっています。右が単行本版p16で左がその全集版。「親父ですよ、親父。決まっているでしょう」から後に注目。 #TAP_MTG



安部

co.jp

今月の読書会

読書会コミュニティ『本コミュ』7/17 (20:00~) 読書会開催@honkomyu・Jun 24

おはようございます！次回の読書会は6月24日（土）20：00～開催！

テーマは「安部公房」。

是非みなさんのおすすめ本を教えてください♪

女性がファシリテーターを担当しますSmiling face

読書会初心者の方でも、安心してご参加くださいRed exclamation mark symbol

申し込みはPeatixにてDown pointing backhand index

<https://www.kokuchpro.com/event/3ff9f2a886cf28c77a7143a372639789/>

ホッタタカシ@t_hotta・Jun 26

【安部公房読書会】東京・安部公房・パーティーのオンライン読書会（課題本『カングルー・ノート』）、無事に二次会（リモート飲み会）まで終了しました。参加者のみなさん、お疲れ様です。次回は、もしやるなら『友達・棒になった男』（新潮文庫）かな？ #TAP_MTG

今月の石川淳

本ノ猪@honnoinosisi555・Jul 3

石川淳と安部公房（昭和27年撮影）。

（参照：『新潮日本文学アルバム51 安部公房』新潮社、P37）



今月の三島由紀夫と安部公房

西村幸祐@kohyu1952・Jun 24

だと彼女は書いているので、ちょうど55年前の1966年に三島由紀夫と安部公房が同調圧力を20

世紀の危機のとして捉えた対談を行っていたと、コメントした。実はこの二人の対談を解説する単行本を、安部公房研究家の岩田英哉氏と共著で出す。9月には出させる見込みだ。

今月の詩人の生涯

シネフィルDVD@cinefilDVD・Jun 16

川本喜八郎の『詩人の生涯』（こちらも原作は安部公房、音楽は湯浅譲二）を観て何がしかの感銘を受けた方なら、勅使河原＝安部コンビの作品はきっとハマるはずですし、その逆もまた然り。川本さんは『火宅』『蓮如とその母』で音楽に武満徹を起用してますしね。

もぐら通信

ジャケツ!



今月の安部公房のサイン

Q@Q_9q9q・Jun 15

安部公房のサインがあまりに安部公房的で格好よすぎる



今月の呪術

Bird小さなグマーヴァ (要反省Bear face) @bakudewanaikuma・Jul 24

Replying to

@odelay88

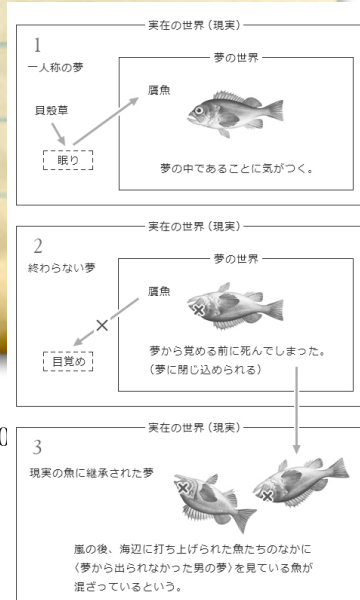
安部公房の呪術的或いは宗教的概念による経済の支配って視点は一見の価値ありですよBear faceTurtle

現在の資本構造の中で価値の創出に対する見方を個人個人が抜本的に改めようと動き出さない限り新しい価値観の台頭如き大明神の足元にも及ばないって考え方が私は好きですねBear faceSparkles

今月の箱男

スイドウ@ul_xe・Jul 19

安部公房「箱男」《6》鰐魚 - 鞠十月堂 https://nightinriver-10.hatenablog.com/entry/Kobo_Abe/%E7%AE%B1%E7%94%B7/6... 定期的に見返したくなる





今月の砂の女

koji kishita@hamaweb・Jul 14

安部公房の「砂の女」は戦前・戦中・戦後で常識がコロコロと引っくり返り、不条理や嘘が常識と化す世相の中から生まれた。令和の時代になった今でも「砂の女」はそこにいる。

今月の埴谷雄高

ネットの弊害、埴谷雄高の予言：

人間の存在と思考を主題にした未完の長編小説「死霊（しれい）」で知られる作家の埴谷雄高（はにやゆたか）（1909～97）が、創作の原点となった戦前の左翼活動などを語った未公開のインタビュー録音が見つかった。野坂参三・元日本共産党名誉議長に当時感じた不審や、ゾルゲ事件で処刑された尾崎秀実（ほつみ）との…：<https://www.asahi.com/articles/DA3S14973998.html>

巻頭詩

(21)

時間彫刻機製作のための
《世界の果て突破方程式》

または

トロンプ・ルイユ (Trompe-l'œil・騙し絵) 実在化方程式

安部公房



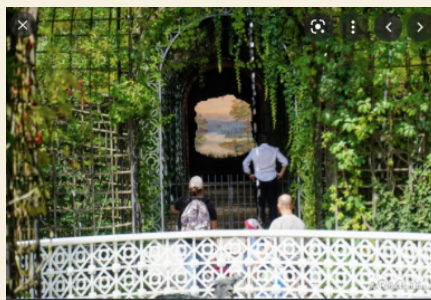
この等価交換方程式の等号トンネル [=] の案内人「バベルの塔の狸」

$$\int_0^{2\pi} \left(\frac{hv'}{C} \sin \theta \right) ad \theta - \frac{mBC}{\sqrt{1-B^2}} \cos \theta = \int_0^{\infty} 0.042 \sum_0^{\infty} e^{-\frac{\theta}{2}} d\theta$$

[現実=仮想現実・内部=外部] 往復・等価交換方程式

(『バベルの塔の狸』全集第2巻、491ページ)

≡といふ等号のトンネルをくぐり抜けるための変換式



ドイツ、バーデンビュルテンベルグ州のシュヴェツィンゲン城のバロック庭園『世界の果て』のトンネルの奥に見える《世界の果て》[トロンプ・ルイユ (Trompe-l'œil・騙し絵)] S・カルマ氏は此のトンネルを潜つて壁となつた。トンネルの前に立つて世界の果ての景色を眺めてゐるのは、たまたまドイツ人に生まれた複数の潜在的S・カルマ氏、即ち、ドイツの安部公房の読者である。

但し、この時、S・カルマ氏であるあなたは己を捨て、自己喪失を結果する此のトンネルと呼ばれてゐる穴凹に自ら身を投じて、道元禅師のいふ心身脱落状態となり、全ての記憶を失つて、自己の名前も忘れてしまひ、悟りの跡の残らぬ汎神論的存在となるのである。身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ。この異次元トンネルは、あなたの隣にパツクリと口を開けてあなたを待つてゐる。此れが果たして事故か、自殺か、他殺か、未必の故意か、それが公然の秘密か、といふ問が安部公房の世界である。

周辺飛行

(45)

3. 『周辺飛行』について (21)

周辺飛行43および44：藤野君のこと

正・続

岩田英哉

ここから二つの「周辺飛行」が43、44と続きます。前者は正の表記なし。後者は続となつてゐます。つまり、安部公房は43を書いた後さらに考へる必要を覚えて44を再度書いて続編としたのです。

前者は、既に前回の周辺飛行で詳細に引用して述べた、ウエーといふ人間そつくりの動物を着想した北海道道東旅行での列車内での古老との誤解の話そのもので此の43の周辺飛行は尽きてゐますので、まづ何故藤野君といふ固有名詞が安部公房の頭に浮かんだのかについての少ない量の引用をしてから、44の周辺飛行に入ります。この周辺飛行で、安部公房は本格的に一体藤野君とはどういふ人間であつたのかについて述べてゐるからです。

1. 周辺飛行43：藤野君のこと

このエッセイの最初と最後が藤野君についての言及になつてゐる。この言及は、一体なぜ固有名詞のない自分の世界に此の固有名詞が突然現れたのかといふといふ問と答からなつてゐて、答の方は依然として曖昧なままであるので、私が文章を読んで得た回答を述べて、安部公房の疑問に答へとしたい。安部公房は飼育係の名前を作中で藤野君としたが、それが実在の人物であつたことに後で稽古中に気づいて、この連続した二つの周辺飛行を書いてゐるのです。

安部公房の疑問：「だが、なぜ「飼育係」の名前を選ぼうとして、藤野という姓が浮んだのか。なぜ、実在するあの藤野君の記憶と結びつくことを承知で、わざわざその姓を選んだのか。」

私の得た答え：

(1) この人物の笑ひ方が、これも隙間のある非連続的なカッカッカッ、といふ笑ひかたであつたから。

(2) この人物が幾何学的な顔をしてゐたから。

(3) 次の「周辺飛行44」に詳細は譲るが、この藤野君といふ人物は、大陸からの引き揚げ船といふ立錐の余地なき人間のギョウギョウ詰めの密室空間の中で、誠に後述する理由によつて誰にも気兼ねなく立つたり座つたり、起きたり寝たりが自由にできる特権的な地位を自分一人だけ、他の人全ての飢餓感を他所に我関せずエンと、確保してゐる人間であつたから。

一言でいふと、安部公房の位相幾何学的な感覚と形象に生きた人間としてピッタリ

である人物だつたといふことです。

(1) 笑ひ方

「「藤野」という字からいきなり耳馴れない笑い声がひびいてきたものだ。カ、カ、カ、と、片仮名をそのまま読んでいるような、乾いた高笑いで、現に「飼育係」を演じている佐藤正文の声とはまったく異質なものだつた。」

(2) 顔

「正方形に近い角ばった顔の輪郭と、額に垂れ下ったフランケンシュタイン式の髪型が浮び上がり、とたんに一人の人物が像を結んだのだ。もう三十年も昔のことになる。実在する藤野君だつた。ぼくより十年は年長だつたはずだから、君というよりは、氏と呼ぶべきかもしれない。」

(3) 特権的な地位

これは、安部公房の戯曲の科白の全ての行間、間合ひ、沈黙に透明に存在してゐる「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者一名」に相当する地位を藤野君が占めてゐるといふことを意味してゐて、そしてそのみならず、既に見てきたやうに、この地位は公然たる秘密であらねばならないのです。この公然たる秘密性は、要するに見て見ぬふりをするといふことでありますから、確かに次の周辺飛行で詳細に其の實在せる公然の秘密性は、安部公房の脳裏に此の人物が浮かんできたことの原因かも知れません。しかし、いつもの安部公房の世界と異なるのは、この人物が公然の秘密であるならば、あの燃え上がる仔象のやうに實在しない仮説設定された幽霊の如きものや、人間そつくりの火星人でなければならぬところを、公然の秘密でありながら、実際に生きた人間としても實在してゐるといふことなのです。

以上は、私からの作者への、作者の心中を察した回答ですが、しかし、本当はどうかは解らない。安部公房の虚構とモデルの實在の不明瞭なことに対する暗中模索は、次のやうな原因解説の試みの言葉として此の周辺飛行には書かれてゐます。

「だが、なぜ「飼育係」の名前を選ぼうとして、藤野という姓が浮かんだのか。なぜ、実在するあの藤野君の記憶と結びつくことを承知で、わざわざその姓を選んだのか。どこか自分でも意識していない深いところで、やはりモデルにしていたのかもしれないとも思う。とにかく藤野君のことを書いてみようか。どんな實在のモデルでも、作品の中に移植したとたん、独自の成長をはじめ、原型と似ても似つかぬものになってしまうものなのだ。しかし、一滴の雨のしずくが、大海の主成分であることに変りはない。」

(ここからは、次の最後の段落の引用まで、ウエーの着想を得た北海道での旅の話

が続きます。)

「あいにく本題に入る前に紙数がつきてしまった。藤野君の場合については、単なる誤解では済まされないものがあるような気がするが、その検討をふくめて、とにかく次回にゆずるとしよう。もし誤解でなければ、藤野君と「飼育係」を結ぶ、消えた道路のどこかに、危険な不発弾が埋まっているような気がしてならないのだ。」

といふわけで、この「危険な不発弾」を意識下に掘り進めて行くのが「周辺飛行44」です。

そして、この二つの周辺飛行の間に戯曲『ウエー』が置かれてゐる（全集第25巻、281ページ）。この戯曲の科白を読み始めて直ちに判ることは、やはり、この飼育係は「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者一名」に他ならないといふことです。この飼育係は科白と科白の隙間と行間にゐる登場人物である。舞台の上では実際に様々な行動をして実在してゐるかの如くに見えてゐるし、主人や息子や息子の妻などと会話が成立してゐるかの如くに見えてゐますが、実際はさう、恰も何々の如くに見えてゐるだけで、行間に棲む此の幽霊の科白はなくても、その両側の科白は成り立つやうな科白になつてゐます。試しに飼育係の科白を抜きにして両側の科白を続けてみて下さい。違和感なく会話が続く筈です。幾つか例を引きます：

例1：冒頭：第一幕

主人 荷物？（飼育係に）なんだろう？

飼育係 （首を傾げ）さあ……？

息子の妻 何か、大きな檻みたいな感じ。

飼育係 ドアからじゃ、通りそうにないですか？

息子の妻 ちょっと無理ね。（両手で小屋ほどの大きさを暗示する）

例2：中段：第九幕

女子学生 いま、何時？

飼育係 （腕時計を見て）四時、二十四分……いいかげん、出ることにしたらどうです。そろそろ夜も明けるし。

女子学生 （鏡を出して髪をなおしながら）ねむっちゃったみたい。

飼育係 よく我慢出来るな。どうかしてるよ。

女子学生 そんなにべったり、見張ってくれなくてもよかったのに……

飼育係 馴れっこなんだ。一回二時間ずつ、三回寝れば、計六時間でしょう。そういうやり方に、馴れてしまって……

この引用を見ると、飼育係は隙間から表に顔を出してゐるやうにもよ読めますし、確かに他の場面でも表に出て藤野君と名前を呼ばれることがあるのですが、しかし他方、これを女子学生の独白と読むことのできる二重性を飼育係の科白は持つてゐます。この二重性は、そのまま此の役割の二重性といふ性格を示してゐます。何故、二人の直接のやりとりではなく、女子学生の独白と読み得るかといふと、この第九幕の最初に次のト書きがあるからです：

（明りがつく。あるいは幕が上がる。明りはやや明るめの常夜燈。したがって、前の場よりは暗い。ウエーの檻の横に、小さな檻が据えられ、中に女子学生が閉じ込められている。二つの檻の間に置かれた椅子に、飼育係が掛けている）

そして、ここまでを藤野君の役割に注目して読むと、次のことがわかります。藤野君の役割とは、

（１）シャッターの開閉をする役割である：

「飼育係 インチキと分かれば、送り返せばすむんですから。

（シャッターが開ききる）」（同全集、286ページ上段）

「主人（飼育係に）藤野君、シャッターを降ろしなさい。嫌な声だよまったく」（同全集、288ページ上段）

（２）何かの隙間や間から何かを取り出す。安部公房の論理では、存在を取り出す役目をするのが藤野君といふことになります：

「主人（ふと）藤野君、そこの本棚の右はし……古い動物画集があるだろ……そう、それ……その表紙の裏に、何枚か、面白いポルノ写真をはさんであるはずなんだ。」（同全集、293ページ上段）

この科白の「……」は成城高校以来のリルケの詩に学んだ沈黙の記号です。沈黙といふ会話の隙間から存在の写真を取り出す能力を有する登場人物が藤野君だといふことになります。あなたは、安部公房の自ら焼いた写真を想ひ出しても良い。

（３）檻といふ空間を閉鎖空間にするために錠前を掛けたり取り外したりする役割を演ずる：

「飼育係 お願いだから、出ちゃって!錠前、掛かっていないんだから。」（同全集、309ページ上段）

これ以外でも、この藤野君は、檻に自由に出入りすることができてゐます。閉鎖空間の内部と外部を自由に行き来することの出来る、初期安部公房ならば『バベルの塔の狸』の主人公アンテン君の役廻りです。ただし、出入りをする度に、とらぬ狸に頭を殴られて気絶して意識を失ふ必要はないやうですが、しかし、役作りの上で

一体この出入りがどのような身体感覚で出入りをするのかは、やはりニュートラルだと、安部公房は役者たちに指導したでせう。

(4) 檻の扉の開閉と同じことですが、スイッチのON/OFFを入れる役目を演ずる：

「主人 藤野君！

飼育係 はい。(インターフォンに) じゃ、たのんだよ (スイッチを切る) 」

(同全集、325ページ上段)

(5) 移動体の方向転換に手を貸す役割を演ずる：

「飼育係 (二本の容器を手押車にのせ) 信じなけりゃ、勤まりませんよ、こんな仕事……)」

(息子、腹立たしげに、飼育係をにらむ。助手、作業をおえ、スコップを壁に立てかけ、仕切板を閉じる。飼育係、手押車の方向転換に手を貸す) 」(同全集、329ページ上段)

手をそつと添へて方向転換するのは、位相幾何学の本質的な事柄。安部公房が自動車といふ後方をバックミラーで見ることのできる走る閉鎖空間でハンドルを握つて前進することに非常に愛着したことを想ひ出して欲しい。

例3：最後：第十二幕の最後

次の檻の扉の開閉の箇所もあります。当然錠前を外したのです：

「飼育係 さつき、猛獣の檻を全部開けておきました。」(同巻、343ページ上段)

これを見ますと、藤野君の役割は、閉鎖空間の扉の開閉をする役割だといふことができます。スイッチのON/OFFも然り。ON/OFFといつてしまへば、移動体の方向転換のスイッチをONにしたりOFFにしたりするのも藤野君の仕事といふことになります。

かうして、以上の例1から例3に挙げた形象と動作は皆トポロジー由来のものであることがわかります。最後に藤野君が檻を開けるのは、この作品全体を外部に開くためです。安部公房の作品の最後は皆このような形で内部が外部に、ドアを開けて、開かれてある形で終つてゐる。安部公房の十代の詩も同じ、リルケの詩も同じです。最後に必ずS・カルマ氏の脱出のために通つたトンネルが、チューブの長さの長短を問はずに、配置されて次の空間に接続されてゐる。

この章の最後に『カンガルー・ノート』論から部分的に引用して、安部公房の書い

た凹の隙間の形象、即ち存在の形象を列挙しますので、飼育係や特権的な重症患者同様に、あなたもこれらの凹に身を潜めてみては如何でせうか。

第1章：かいわれ大根

- ①有袋類（83ページ下段）
- ②《提案箱》（82ページ下段）
- ③《カンガルー・ノート》（82ページ下段）
- ④毛穴（82ページ上段）
- ⑤ポケット（84ページ下段）
- ⑥《かいわれ大根》（85ページ上段）
- ⑦「淡黄色の液でふくらんだ大判のビニール袋」（90ページ上段）
- ⑧「拳大の透明な袋」（90ページ上段）
- ⑨大型のコンクリート・ミキサー（95ページ上段）
- ⑩点滴の袋（95ページ下段）
- ⑪警官が示した「薄い書類挟みから」取り出した「葉書大のカード」に描かれた『尻尾』のない豚（95ページ下段）
- ⑫飼葉桶（96ページ上段）

第2章：緑面の詩人

- ⑬小便袋（98ページ下段）
- ⑭穴（99ページ下段）
- ⑮5台分の量を運搬する十トントラック（101ページ下段）
- ⑯列をなすトロッコ（101ページ下段）
- ⑰「遊園地風のミニ列車」（102ページ上段）
- ⑱硫黄泉（102ページ下段）
- ⑲鳳仙花（103ページ上段）
- ⑳「中ほどに、屋根付きの開口部」のある「約八メートル」の「昔は烏賊釣り船だった」「小型の漁船」（105ページ上段）
- ㉑「縞魚の研究によれば、雄と雌それぞれの生殖腺を生干しにして、百メートル十五秒以内の速度（中学三年生の平均走行能力）で接触させると、ダイナマイトをしのぐ強力な爆発力を発揮するといふ」烏賊（107ページ）
- ㉒「『三日堂』の標識のすぐ先に、以前は荷揚げ場に使っていたらしい、「コ」の字型のテラス」（108ページ下段）

- ㉓鞆（112ページ上段）
- ㉔財布（112ページ下段）
- ㉕脱衣籠（112ページ下段）
- ㉖「胸のチューブも挿入したまま」の主人公または「チューブも挿入したまま」の胸（113ページ下段）
- ㉗「トンボ眼鏡の大型バッグ」（113ページ下段）：案内人は鞆（凹）を持つてゐる。
- ㉘便器（114ページ上段）
- ㉙亀頭（114ページ上段）

さて、以上のことを踏まへて、次の周辺飛行へ。この周辺飛行が、周辺飛行の名の下に書かれてきたエッセイの最後のものです。この後から、安部公房スタジオの活動は後期に入り、既に此の論考の最初で整理をしてゐた通りに、この44番目の周辺飛行の後、安部公房は「安部公房スタジオ会員通信」といふ小冊子にエッセイを掲載して、ファンとの交流を図るのです。では、最後の周辺飛行です。

2。周辺飛行44：：続・藤野君のこと

結論を最初にいへば、やはり藤野君は超越論的な存在論の人間でした。時間の中で私の強ひられる二者択一のいづれをも選択することなく、第三の道を行く藤野君の姿です。場所は、大陸から引き揚げる狭い密閉密室密集空間の中の話です。当然のことながら、狭隘なる船室の中では空間の争奪戦が繰り広げられることとなります。

「さて、そうした空間の争奪戦のなかで、わが藤野君だけは、いつも平然と体を起こし、あぐらをかいたり、かかえた膝に顎をのっけたりして、自由な姿勢をたのしんでいたものだ。そんな自由を許された連中には、大きく分けて二種類あった。一つは、排泄物で汚れきった重病人か、極端に暴力的な危険人物。いま一つは、横になることを一切あきらめてしまった、あきらめの良すぎる人間。この種の人物は、夜も坐ったまま寝るしかなかった。だが、藤野君は、そのどちらにも属していなかったのである。昼間、自由な姿勢で坐っているように、夜になればなつたで、大の字になって睡りをむさぼる事ができたのだ。まさに例外的な人物だった。とにかくよく目立った。」（同巻、355ページ下段から356ページ上段）

この藤野君が、通常の安部公房の存在に生きてゐる人間に比較をすると、「とにかくよく目立った」といふ点が例外的で、ここがやはり舞台の上でも科白上は、半ば科白の合間に表に出て来てスイッチのON/OFFをするといふ役割を演ずることになつてゐるのだと思はれる。

とすると、一体藤野君は何のスイッチのON/OFFを繰り返した人物なのであろうかといふと、これが全く魔術的な「藤野君のチョコレートの時間」のON/OFFのスイッチを切り替へる役割を演じた人物であるのです。まづこの時間の出現には、チョコレートの箱といふ閉鎖空間があるといふことが、安部公房の記憶に実に鮮烈に残つたのではないかと思ふのです。実際にこれが鞆でも段ボール箱でもマッチ箱でもなんでも良いわけですが、しかしこれは引き揚げ船の中とて、なにしろ飢餓感に満ちてゐるわけですから、この「藤野君のチョコレートの時間」のスイッチをONにすると、次のやうな時間が現出する。『カンガルー・ノート』ならば、垂れ目の少女Bと同じく、既存の交通体系の上で支線をお猿の列車に乗つて運転したみたものが、「いつの間にか」（超越論）新交通体系に切り替へる軌道のポイントの位置にゐてシステムを切り替へてしまひ、それまでの交通体系といふシステム

全体の部分である支線のシステムを、新交通体系システムの全体としてしまひ、それまで支線を走つてみた筈の垂れ目の少女Bは「いつの間にか」この新システムの上の軌道の全体を列車で運転する運転手になつてゐるのと同じです。

(1) 箱について

「もっとも、サッカリン [引用者：砂糖の代用品であつた甘味料の名前] で場所を買っただけなら、藤野君を見る周囲の眼はもっと敵意のあるものになっていただろう。だが彼はなかなかの戦術家でもあつた。勝目がない、とあきらめたとたん、敵意があつさり羨望に変わってしまう、あの弱者の心理をよくつかんでいた。たとえば、一日に三度、食事の後にきまつて大きな容器を取出してくる。バラの花にかこまれて、ロメオとジュリエットがブランコに乗っているような、極彩色の絵をプリントしてある丸いブリキの箱だ。ゆっくり儀式ばつた手つきで、蓋をとめてある絆創膏のテープをはがす。見ないようなふりをしながら見詰めている、何十（あるいは何百）という焼きつくような視線の中で、おもむろにその蓋を開ける。当時としては、その箱だけでもすでに珍品だったが、なかみはもっと心ときめかせるに足る珍品だったのだ。親指ほどの太さもある、チョコレート・キャンディだった。つまり、容器と一致する内容だったわけである。」

(同巻、356ページから357ページ)

(2) 「藤野君のチョコレートの時間」について

「藤野君は、赤い大きな舌を出して、そのチョコレートの棒をしゃぶりはじめる。ひと舐めごとに息を入れ、ゆっくり時間をかけて、しゃぶりはじめる。当然それなりの反応はあつた。(略)……さまざまであつたが、敵意をあらわにした者だけは、たしかにいなかったように思う。

(略) それとも、あんなふうに気を吞まれてしまつていたのは、ぼく一人だけだったのだろうか。

そんなはずはない。そうでない証拠に、藤野君のチョコレートの時間がはじまると、その周囲にきまつて数人の人の輪が出来た。顔ぶれは同じこともあつたし、違うこともあつた。中央のホールを散歩するようなふりをしながら、磁石に吸い寄せられる鉄片のように、さりげなく集つてしまうのである。(略)

そして、心ゆくまでチョコレートの香を吸込んだ一同は、しばしばぼくもその中の一人だったが、いま自分がこうして生きのびていられるのも、ひとえに藤野君のおかげだという満ち足りた気分させられて、それぞれ自分の輪郭よりも狭い領分へと、おのれを埋め込むために引返して行つたものである。」(同巻、357ページから358ページ)

(3) 「周辺飛行」とは何かについて

かうしてみれば、藤野君は、飢餓に満ちて腹を空かせてみた閉鎖空間内の、いはば引揚船といふ方舟に乗つた人間たちにチョコレートの香りといふ実体のないものを

振り撒くことで、他者に満足感を与える贗の救世主、詐欺師、即ち飼育係である。しかし、安部公房は最後に次のように書いてゐる：

「と、書いては来たものの、あの藤野君がなぜ「ウエー」に登場する飼育係のモデルなのかは、いぜんとして不明なままである。むしろ異質さの方がきわだっているような気がする。しかし、飼育係のために藤野君という名を選んだとき、あの引揚船のなかの藤野君を思い浮かべていたこともまた事実なのだ。どこに、どんなつながりがあるのだろうか。自分の思考の道筋が、自分にもさっぱり飲込めない。」（同巻、358ページ上段）

「芸術が現実からの挑発である以上（ぼくはそう信じている）、いくら無いように見えても、なんらかの道筋はあるにちがいない。地図に作製しかねるような道だからこそ、創造的表現にも辿り着けるのではあるまいか。「周辺飛行」は、つまり、論理では辿り得ないその迷路をくぐり抜けるための、ぼく自身の体験的報告（方法論）なのである。」（同巻、358ページ下段）

この藤野君は結局どこに消えたのであろうか。

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
 - 7.2 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体となつたのか
 - 7.2.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか
 - 7.2.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なり of 文学的な潮流を吟味する
 - 7.3 ヨーロッパの近代小説とは一体何であつたのか？
 - 7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

Part III 実践篇：小説『S・カルマ氏の逆襲』（英訳版『The Fight Back of Mr. S. Karma』：ドイツ語版『Der Rückschlag von Herrn S. Karma』）：S・カルマ著 [翻訳] 岩田英哉

9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$ (1)

奇妙なことに、漱石の塔を建てる方程式は $[F+f]$ と云ふ肯定形式の足し算であるのに対して、安部公房の塔を建てる方程式は $\neg[F \times f]$ と云ふ否定形式の掛け算です。そして、奇妙なといふのは、前者の形式が漱石にとっては小説を産み、安部公房にとっては俳句の此は形式だと理解されてゐることであり、後者の安部公房の小説の方程式の否定論理に依る掛け算の形式が小説の方程式であると云ふところにあります。これが、二つの塔に関する私の結論ですが、もう少し言葉を尽くします。

漱石の『文学論』の序文を読みますと、次のことが解ります。

(1) 英国留学の目的

文部省による漱石への渡英命令の目的は英語学であるが、漱石をこれを含み総体としての英文学を渡英の目的と現地で変更したこと。

(2) 大学生活と文学勉学の目的

「大学の聴講は三四ヶ月にして已め」、「私宅教師のほうへは約一年ほど通ひたりと記憶す」するも、そのほかは「この間余は英文学に関する書籍を手任せて読破せり。」といふ生活であつたこと。この生活を更に引用すれば「余は下宿に立て籠りたり。いつさいの文学書を行李の底に収めたり。文学書を読んで文学のいかなるものなるかを知らんとするは血をもつて血を洗ふがごとき手段たるを信じたればなり。余は心理的に文学はいかなる必要あつて、この世に生れ、発達し、退廃するかを極めんと誓へり。余は社会的に文学はいかなる必要あつて、存在し、隆興し、衰滅するかを究めんと誓へり。」

(3) 英文学読書生活

「余は余の有するかぎりの精力を挙げて、購へる書を片端より読み、読みたる個所に傍注を施し、必要に逢ふごとにノートを取れり。はじめは茫乎として際涯のなかりしものうちになんとなくある正体のあるやうに感ぜられるほどになりたるは五六月の後なり。」

(4) 渡英中の財産

「留学中に余が蒐(あつ)めたるノートは蠅頭(ようとう)の細字にて五六寸の高さに達したり。余はこのノートを唯一の財産として帰朝したり。」[引用者：一寸は3センチ強ですから、20センチ弱ほどの高さ]

(5) 「余の文学論は十年計画にて企てられたる大事業」

「不幸にして余の文学論は十年計画にて企てられたる大事業のうへ、おもに心理学社会学の方面より根本的に文学の活動力を論ずるが主意なれば、学生諸子に向(むかう)て講ずべきほど体を見せず。のみならず文学の講義としてはあまりに理路に傾きすぎて、純文学の区域を離れたるの感あり。余の労力はここにおいて二途に出

(い)でたり。一は纏まらぬものを、すでに収集せる材料にて、ある程度まで具体的に組織することなり。二はほぼ系統的にでき上がりたる議論をなるべく純文学の方面に引き付けて講説することなり。」(漱石は実作の小説を純文学と呼んでゐることがわかります)

この序文を読んで、滞英中に何を得たか、といふことは何を失つたかといふことでもあります。漱石といふ人間をめぐつて結論をいへば、次のやうになる。

(1) 個人の意志の主張

(2) 英国と英文学と英国人に対する不愉快

留学後の夏目漱石は、上記(1)から(5)の経験と苦労の後に此の二つの(1)と(2)を自分の文学の中心の柱としたといふことです。

この二つを併せて、夏目金之助は滞英中に夏目漱石となつた。一つつ序文を読んだ理解を以て説明します。

(1) 個人の意志の主張

この漱石個人の意志は、ロンドンに滞在中は絶えず「個人の意志よりもより大なる意志に支配せられて」みたと書いてみます。この個人の意志は、当時のロンドンとロンドンを首都とするイギリスといふ近代国家によつて否定される。否定されるといふのは、何よりも漱石がイギリス人ではなく日本人であるからで、これ以外の理由はないのです。知らぬこと理解できぬつことばかりである。したがつて、上記(5)の一大事業計画を十年計画で立案した。

これが、帰国後に学習院の生徒たちに講演でいふ「自己本位」といふ言葉の文脈です（『私の個人主義』）。この自己本位は帰朝後に得た結論ですが、これは英語で生活をしながら既に「個人の意志」として自覚のあつたものです。この延長で、よくいはれる則天去私も理解することができます。即ち、漱石は日本人ですから、天といふ概念は漢文脈で知つてゐる。さうであれば、天は国家を超越してゐますから、国家と対立するこをせず天に即して私を去るといふことが、この生活のための箴言といふことになります。私を、このやうに去るとは、天に即することによつて可能なのですから、英国で得た「個人の意志」の肯定も、帰朝後に得た「自己本位」も、英国と日本の国家を超越してゐる原理に則するのですから、肯定されたままであることができる。これらの国家との関係では、余裕綽々に「私を去る」ことができる。これが、序文を読んで知る、夏目漱石の個人の意志の尊重であり、主張です。

夏目漱石に二面あり。一面は個人の意志なり、他面は次に述べる不愉快なり。この二面一体をもつた夏目金之助を人は日英問はず狂人と呼び、狂気だといつたのです。

この二つのままだるロンドン時代の漱石は、周りのものからは「英国人は余を目して神経衰弱といへり。ある日本人は書を本国に致して余を狂気なりといへるよし。賢明なる人々の言ふところには偽りなかるべし。ただ不敏にして、これらの人々に対して感謝の意を表するあたはざるを遺憾とするのみ。」さうである。そんな人間どもに感謝など不要である。日本人の道德の外に生きることを強ひられてゐるからです。この誤解は帰朝後も次のやうに続く。

「帰朝後の余も依然として神経衰弱にして兼狂人のよしなり。」

この序文の此の最後のところでいふ自己分析は、自分が「この神経衰弱と狂気」からできてゐて、これの克服が己むを得ざる動機となつて漱石を「創作の方面に向はしむる」といふことです。まとめると、

夏目漱石は狂気の人であつて、この狂気は「個人の意志」と、次に述べる不愉快からなつてゐる。前者の意志が衰弱すると神経も衰弱となつて、これが病気であり、修善寺の咯血に至る。後者の不愉快は此のやうな時に最大の苦しみとなる。

漱石の文学論の結論をここでいへば、前者の意志の心理的・社会的解析がFであり、後者の不愉快の同様の解析が情緒である。これが、私の結論です。漱石の言葉では、この文学論の冒頭に次のやうに定義されてゐる。

「(F+f)

およそ文学の内容の形式は(F+f)なることを要す。Fは焦点的印象または観念を意味し、fはこれに付着する情緒を意味す。されば上述の公式は印象または観念の二方面すなはち認識的要素(F)と情緒的要素(f)との結合を示したるものといひうべし。吾人が日常経験する印象および観念はこれを大別して三種となすべし。」

この(F+f)の下位分類である三種の大別とは、

- (1) Fもfもある場合
- (2) Fのみがあり、fのない場合
- (3) Fがなく、fのみのある場合

この三つを考へて、漱石は以下本題に入るのです。

ここまで序文と本文の冒頭を読んで来て、江藤淳の『決定版 夏目漱石』(新潮文庫)の第一章「漱石神話と「則天去私」」を読むと、この箴言のみによつて漱石の文学を理解する偏執を戒めて、小宮豊隆の説を遠ざけてゐることは正しい。漱石の思考の次第は上記の通りだからです。

さて、そして、この理路なる個人意志の発現の肯定に対して、今度はどうしやうもない不愉快といふ感情がある。これが二つ目の問題です。

(2) 英国と英文学と英国人に対する不愉快

序文の次の引用の最初の一行をみれば、これが此の不愉快についての漱石の言葉の全てである。この一行の延長に「個人の意志」があるのです。この感情と意志の論理は当然分かちがたい。

「ロンドンに住み暮らしたる二年はもつとも不愉快の二年なり。(略)余は謹んで紳士の模範をもつて目せらるる英国人に告ぐ。余は物数寄なる酔興にてロンドンまで踏み出(いだ)したるにあらず。個人の意志よりもより大なる意志に支配せられ

て、気の毒ながらこの歳月を君らの麵麩（パン）の恩沢に浴して累々とおくりたるのみ。」

これはロンドンのみならず英国の国民である英国人に対する呪詛と否定の言葉であり、といふことは此の「大いなる意志」はまづは大英帝国の国家意志と考えることになり、しかし続いて漱石を此の国に派遣した大日本帝国の「大いなる意志」がこの顛末に控へてみるといふことになります。

そして、このやうな構図と背景の中に、漱石の学んだ英文学があり、この文学に対する、これもまた漱石の不愉快があるのです。文学に対する不愉快は、その文学の生まれる国の人間に対する不愉快である。英文学に対する不愉快は、英国人に対する不愉快である。

このことの不愉快の顛末の逸話を再び日本の国で経験したことが『漱石とその時代 第四部』に江藤淳が漱石の『「思ひ出す事など」九』より引用してあるのでそのまま引き写します。この不愉快が修善寺へ行く途上であつたと云ふことが誠に象徴的なことです。やはり、私はこの逸話を読んでも、漱石といふ人は日本近代文学の始祖の一人として何者かであると確信します。身に起きることが悲劇的であればあるほど、その人は時代の象徴となる。などとはいひたくもないが。漱石と修善寺へ同道する予定であつた松根東洋城が遅れて来るので途中の駅の国府津か御殿場の駅で待ち合はせしようといふ電報が来て、漱石は途中下車して駅舎にゐた。

《……すると其大男が突然立ち上がつて、貴方は英語を話すかと聞くから、嘎れた声で纔（わづか）にイエスと答へた。男は次に是から京都へ行くにはどの汽車へ乗つたら好いか教へて呉れと云つた。甚だ簡単な用向であるから平生ならば何（ど）うとも挨拶が出来るのだけれども、声量を全く失つてゐた当時の余には、それが非常の困難であつた。固（もと）より云ふ事はあるのだから、何か云はうとするのだが、その云はうとする言葉が咽喉（のど）を通るとき千条（ちすぢ）に擦り切れでもする如くに、口へ出て来る時分には全く光沢を失つて殆ど用をなさなかつた。余は英語に通ずる駅員の助を藉りて、漸くのこと此大男を無事に京都へ送り届けた事とは思ふが、其時の不愉快は未だに忘れない》

この大男が英国人であれば此の通りに、英国人でなくとも英語で意思疎通を図るといふことが此の通りに、誠に不愉快である。

江藤淳の此の引用の説明によれば、漱石は此の時「東京を出る前から咽喉をひどく痛めてゐたのである。そういえば彼は、その後も胃の病状が悪化する前に決つて咽喉を痛めた。」

さて、次の安部公房の、まづは、安部公房の理解では (F+f) である俳句に関する言葉を引用して、この式が何かを説明します。対談者はドナルド・キーン。ここでも、私たちはこれまでの考察により、伝統的に私たちの小説の実現して来たことは、詩魂と批評精神の宿った物語であることを想ひ出して欲しい。後者の批評精神とは、漱石のいふFであり、漱石が付帯物だといふ（ここは議論の余地があります）詩魂とは、漱石のいふfなのです。ですから、漱石の此の文学の定式は、日本の国の小説の伝統に則つてゐて正しい。さて、二人の対話です。

(以下次号に続く)

糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）



7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モナド論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 ビルダーベルク会議とダヴォス会議と国家との関係
 - 7.4 メディア・プロパガンダの構造
 - 7.4.1 中国の超限戦の手口について
 - 7.4.2 ネット大衆と情報の真贋
 - 7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか
 - 7.4.4 疎外とは何か
 - 7.4.5 都市とは何か
 - 7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.6 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか

『安部公房とチョムスキー（11）』（もぐら通信第93号）彼奴等の考へて行動の前提にしてゐる都市の位置が国家階層のどこにあるのかをご覧戴いてから、その後で解説をしたい。問題はヘーゲルとマルクスの考へた歴史と絶対権力の観念と目的・手段の関係と国家経営と、そして一体誰がその国家を絶対的に支配するのかといふ話です。

「かうして、ヘーゲルの論理から唯一絶対神Godは、マルクスによつていともたやすく取り除かれて、マルクス主義が生まれた。さうなれば、

目的 >手段 >国家経営
 歴史 (=観念 (=絶対権力)) >支配者 >国家経営

といふ階層があるのですから、人間の歴史とは、人間の観念が歴史であるといふことになつて、観念は再帰的に観念の再生産を時間の中で繰り返しますから (といふヘーゲルの理屈ですから)、「絶対精神の自然」を理解する人間が歴史を創造し、その下に支配者たちを置いてこれを絶対的に支配し、絶対的に支配された支配者たちが共産党の掲げるイデオロギーに服従して国家経営を行ふといふ、これが共産党の一方独裁による共産主義国家の構造であるといふことになります。さうであれば、既に『安部公房とチョムスキー (10)』 (もぐら通信第92号) の「10.2 第二次世界大戦を三つの戦域に分ける」の「(2)「B_ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」」で得た結論、即ち次の共産党による絶対支配の階層、即ち

Partei >society>state >nation >people
 共産党 >社会 >国家 (state) >国家 (nation) >国民

これに、

歴史 (=観念 (または理念)) >支配者 >国家経営
 History > govern >state

といふ二つを重ねて並べればどうなるか。次の三色の階層に色分けされました。Stateを国家 1、nationを国家 2 と呼ぶことにします。

History > Partei > society > state > nation > people…… 【D英語】
 歴史 > 共産党 > 社会 > 国家 1 > 国家 2 > 国民…… 【D和訳】

最下層にゐる紫色のpeople (国民) とはドイツ語ではdas Volk (ダス・フォルク) であり、これを更に日本語に訳せば、このドイツ語の一語は、普通には次の最初にある三つの日本語訳に対応して、これらを含んでゐます。

(1) 国民 (フォルクス・ワーゲンのフォルク。国民車の国民。State (国家 1) 視点からの日本語訳)

(2) 民族 (歴史と伝統と文化視点からの日本語訳。対応する英語はnation (国家 2)。)

(3) 民衆（上記（2）の民族としてある国民を大衆としてみた場合の日本語訳）

(4) 人民（上記（1）から（3）の歴史的差異の成り立ちを一切無視し、否定して頓着せず、das Volk（ダス・フォルク）を十把一絡げで訳したマルクス主義の日本語訳。勿論人民は、しかし実際には共産党が、マルクス主義の社会を水平横断的に展開して此の社会を世界的に無理やり押し広げて共有するといふ論理である。）」

掲題の間、何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのかといふ題にこれで答へることが出来ます。私たちの国家観の階層は次のやうなものです。

国家（nation・state）>国民1（people 1）>社会1（地方自治体）>社会2（土地土地の社会）>国民2（people 2）>個人（individual）

これを上記の歴史を頂点として次に共産党があり、その次に社会といふもののあるといふ国家の階層、といふよりは、国家はこれらの更に下の階層ですから此れはしかし歴史の階層といふのではなく、共産党の階層といふのでもなく、強ひていふならば共産主義の階層といふべき階層になつてゐます。いふまでもなく、ここには大切に継承すべき国家はありません。従つて、国毎に異なる特有の文化もない。従ひ、民の生活も習慣も何もない。最上位にゐるのは「絶対精神の自然」を理解する人間だけです。歴史といふものは、この「絶対精神の自然」を理解する人間の下にあるものです。如何様にでも歴史は捏造して構はないといふことになつて、実際その通りの惨状になつてゐる。問題は世界中が、この惨状が人間の人間に対する非合法の暴力によつてさうなつてゐるといふことです。

以上が、PJたるあなへの国家秩序を巡る民主主義・自由主義国家と極左・共産主義との歴然たる相違です。これを頭に叩き込んで彼奴等の言葉を理解し、話し合ひは最初から時間稼ぎにしか過ぎないので、最初から拒絶し、戦ふ以外には道はないと私は考へますので、前者の国家の元に成立してゐる世の中に生きる私たちの対抗できる唯一の、我が身を守る安全保障上の手段は、合法的に暴力を国家の各階層に於いて執行し行使し実行することです。これら公然たる権力を私たちが執行・行使・実行することを説明する「近代国家構造模型図」については、既に何度も提示してゐますので別途参照を願ひたい。あらためてダウンロードは：
<https://www.docdroid.net/F27Fa4K/v12-xlsx>

何故彼奴等が都市を狙ひ暴力をふるつて恥じないかといふと、此れは上掲の階層図を見ればお判りの通り、

History>Partei>society>state >nation >people……【D英語】

歴史 >共産党>社会 >国家1 >国家2 >国民……【D和訳】

といふ階層のうち赤い階層三つの内の第三番目の社会を共同体・community・コミュニティの集合と考へてゐるからで、この集合の支配者はその上位者である共産党（名前はなんでも良い）であるわけですから、実際に私たちの生活してゐる国家の階層、即ち、

国家 (nation・state) > 国民1 (people 1) > 社会1 (地方自治体) > 社会2 (土地土地の社会) > 国民2 (people 2) > 個人 (individual)

これを絶対的に支配しようといふことなので、相当な軋轢と暴力的事件がズレに起きるのです。この二つの階層図を比較してみれば、最も最短最速で社会といふ共同体を支配するには、この私たちの最上位にある国家 (nation・state) を略奪して支配すればよいといふことになります。これを今中国共産党からは超限戦の名前の元に、アメリカからは国際金融資本主義のグローバリズムといふ名前の元に、私たち日本の国は攻撃を受けてゐるわけです。この構造二つの間にあるズレ・差異をよく見て、観察もして、日々の情報の真贋を見極めることがPJの仕事であり、ネットを通じて発信することができるならば、さうすることが大事です。さして落選さすべき議員は落選させ、その他の場合には集団訴訟を起こす。

この私たちの最上位にある国家 (nation・state) を略奪して支配すればよいといふ戦略の元に、既に国会議事堂の中の議員の大多数は（と国民の目には見えませんが）極左・共産主義者であります。

私がここまでの断言をすることのできるのは、高校生の時代にベスト・セラーであつた羽仁五郎著『都市の論理』といふ本を購入してゐたからで、当時は目を通して理解が出来ませんでしたので、長いこと放つておきましたが、今読みますと、その間違ひだらけの無責任な、実証性のない、思ひ付きを新発見などと誇りが如き好き勝手な言辞を弄してゐて、よくも恥じないものだと感心します。思考の論理性も道徳的な誠実も全く欠いてゐる。

この本の元になつた会合を組織してゐる人間たちの頭の中は、

国家 (nation・state) > 国民1 (people 1) > 社会1 (地方自治体) > 社会2 (土地土地の社会) > 国民2 (people 2) > 個人 (individual)

といふ階層の内の社会1および社会2にあつて、社会1と社会2を国家 (nation・state) を否定するものであるといふ論拠を築くために我田引水をヨーロッパの歴史と国々から、自分たちの都合の良い事実だけを（それも事実かどうか読むと疑はしいが）抜き出して来て、日本の国に当てはめてこの適用した当該部分を否定して、出席者と読者を扇動し、またそのやうな読書会の如き講義講演

を行ふといふ手段を用ひてゐるのが解ります。この人員の組織的動員によつて国民1と国民2を扇動しようといふのです。さうして実際にさうして来た。

当時はそれでもまだ国家が確たるものとしてありましたから、何故ならそれは戦時経験者たちが元気で働いてゐたからですが、この人達が一線を退いた後の今はこの国家の中樞の議員と官僚も、それから経済の世界の経営者もまた同類に此の考へに墮してしまつてゐて、政治・経済の領域で、更にはマス・メディアの領域でどのやうな此れも惨状を呈してゐるかは、あなたが日々目の当たりにしてゐる通りです。彼奴等の目的は、その目次から幾つかを拾ふと次のやうな二項対立による国内の分裂を図るものです。これは近代欧米による植民地主義政策そのものです。彼奴等の用語をそのまま使つた御題目は次の通りです。

- (1) 歴史といふ概念の濫用
- (2) 家族及び地方権力からの解放
- (3) 都市の自由 (恣意的な基準は古代ギリシャの都市とルネサンスの都市)
- (4) 大学の自治

以上4つの題目の元に、1968年といふ発行年に云ふ現代の闘争とは、そのまま引き写せば、

- (5) 都市の破壊
- (6) 青少年問題 (の解決)
- (7) 自治体の腐敗と中央集権
- (8) 自治体の腐敗と官僚主義
- (9) 公団・公社を廃止せよ
- (10) 公安条例を廃止せよ
- (11) 公安条例の憲法違反
- (12) 自治体の軍事化
- (13) 選挙の問題
- (14) 独占資本主義下の自治体
- (15) 自治体の復権 (京都・東京)
- (16) 都市自治体は連合せよ!
- (17) 自治体の敵—”公団”、”公社”

私の現状認識は、国家の階層から社会1 (地方自治体) 及び社会2 (土地土地の社会) の階層まで極左・共産主義に食ひ荒らされてゐて、上層にゐる筈の国民1と下層にゐる国民2と個人が日々の生活に、民主主義制度的な政治意見の反映がないために、全く困窮してゐるといふ認識ですが、この私の現状認識は正しいか。あなたに於かれては如何か。お考へ願ひたい。

今の日本の固有の国体に即して上掲の階層を再度掲げれば、今の日本の危機は次のやうに示すことができる。

すめらみこと・天皇といふ存在＞国家 (nation・state)＞国民1 (people 1)
＞社会1 (地方自治体)＞社会2 (土地土地の社会)＞国民2 (people 2)＞個人 (individual)

さて、以上の、私たち日本人の頭の中にある国家の位置とは異なる位置に国家を置いて活動する極左・共産主義者であるといふ此の違ひ・差異を念頭に置いて、次の文章に進みたい。

掲題の何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのかといふ此の何故といふ原因を問ふ問に答へることはできません。何故なら、この問の主たる文である「極左・共産主義者たちは都市を狙ふ」といふことは、理由を欠いた目的であり手段であるからです。

しかし目的であるならば、何か動機はあるだらうといふ問には答へることができる。私のこの動機の解明に関する結論は多分これからも変はらないでせう。それは次の三つです。それは、その人間の、

- (1) 自己憎悪
- (2) 被害者意識
- (3) 死への恐怖

この三つの内の最も大きな動機は(1)の自己憎悪であり、この自己憎悪が(3)の恐怖といふ人間の根源的な感情の一つに結びついてゐる。それも始末の悪いことに、自分の死ぬことへの恐怖心と分かち難く結びついてゐる。この二つが結びついて自己の内面をみることができずに、原因を全て外部に求めれば、(2)の被害者意識に二つの感情は転ずることは容易に見てとることができません。

これら三つの心理的・感情的動因を狙つてやつて来るあなたの弱点が次の章に論ずる疎外といふ問題です。此れは農村にはなく、あくまでも都会の、都市の、問題です。従ひ、近代国家の構造に直接起因してゐます。

7.4.4 疎外とは何か

これが、私の見立てであつて、それではこれは一体なんといふ名前と呼ばれるのか？と問へば、20世紀には、これはマルクス主義と呼ばれてゐました。マルク

スの文章は、前章の三つの動機を正当化するための文章です。マルクスの『資本論』の第一章の商品価値論で解ることは、マルクスのいふ疎外とは何も難しいことではないことが解ります。ここにあるのは、いふまでもなく哲学などではなくて、物質の支配に関する上記（１）と（２）の感情を隠した次の理屈です。

疎外とは、その人が大量生産品を生産するベルト・コンベアーに並んで商品を作る労働者であるならば、その不満は次のことにあるのです。この不満が疎外です。

（１）自分で商品の値段をつけて直接販売して値段を決めることができないこと

（２）労働賃金（の安さ）

（３）疎外するといふ動詞の主語は、その時の社会の仕組みである。この社会の仕組みが疎外の悪をなす原因だ（といふ考へ）。

社会とは都市の集合であつて、これは国家の設ける国境を超えてゐるべきものだと何故か共産主義者は考へてゐる。何故か？communism・共産主義といふ名前の由来は、community=社会・societyにあると彼奴等が考へるのみでは足りない。

History>Partei>society>state >nation >people……【D英語】

歴史 >共産党>社会 >国家1>国家2 >国民……【D和訳】

この構造を隠して、次のことを私的暴力、即ち徒党を組んで分裂を図り、実際に行ふのが極左・共産主義者たちである。

国家の否定と地方自治体の肯定

精神医学の利用（悪用）

都市は自由だといふ観念（あくまで観念である）

都市と農村の対立

中央集権の破壊と地方自治体の独立

地方自治体と（都市と農村）の分裂

他にもまだまだあなたの身近に見聞きする分裂があれば、皆例外なくこの線上にあるとお考へ下さい。そして、むしろ例外だと知つたところに局面打開の方策が見つかる可能性があります。

7.4.5 都市とは何か

（次号に続く）

Mole Hole Letter

(58)

超越論 II

～百年後の読者のために～

岩田英哉

私の知つてゐる超越論的経験といふべき経験は、既に以前『Mole Hole Letter (3) : 超越論』(もぐら通信第67号)で述べたことがありますので、これを第一部とすると、今回は第二部といふわけです。想ひ出したのでメモ書き程度に残しておく、位に思つてお読み頂けるとありがたい。人生の重さ軽さなどといふものは、誰にも計りやうがない。お互ひの苦勞の比較などできようもないし、しようもないのと同じです。

私が覚えてゐる人生最初の記憶は、まだ生まれて数ヶ月の赤ん坊の時に、散文的にいへば身長50センチの時に、布団の上に仰向けに寝たまま天井の棧を見て、棧の数を数えたことです。

棧の直線を見て、その間にある並行面を構成する矩形の板の単位を今度は縦に眺めて、多分数へたのでせう、勿論天井や棧などといふ言葉は後で覚えた言葉ですから、この経験は言葉にしやうのない経験です。これは小学生になつても不思議な経験として私の興味を惹いて止まなかつたので、その時も私は家の中で天井を眺めてみると、そばを通り掛かつた大人が棧の数はその日本間の畳の数と同じだと教へられて、今度は下を向いて畳の数を数えると、棧の数と同じ畳の数で、なるほど大人たちがこれで八畳間と呼んでゐるのかと思つて、八畳間といふ此の空間の間(マ)の意味が腑に落ちたことがあります。思へば、棧の数を数え、畳の数を数へるといふことが、空間の大小を問はず、私のあめつちの初めて開けし時ゆ、といふことになります。これが、私の覚えてゐる最も早い超越論の記憶です。天と地とは互ひに呼応した数字からなつてゐる。従ひ、古事記を読むと、高天原の数字は奇数の3・5・7である。これに対して、時間の中にある国津の世界は、八(ヤ)の音義を基軸に、奇数を一つづつズラした偶数で構成されてゐる。といふ理解を私はしたわけですが、これは何か自然のことのやうに思はれる。小さな宇宙も大きな宇宙も、宇宙である限り、その構造は変はらない。

二つ目の超越論の経験は、この天井の棧を数へるといふ経験と同じ時期に次のやうな経験として経験された。

私は柔らかな布団に寝てゐたが、立ち上がりたいと思つたので手脚を動かして立たうと思つたが、今でも明瞭に覚えてゐるのは、両脚が膝の関節を曲げて立たうとし、また両手が布団を抑へて立たうとしたが、両手両脚がバラバラにしか動かないので、これは日本語以前の日本語といふべき言葉が心の中に生まれて、アレ、オカシイナ、ナゼボクハタテナイノダラウ、さう思ひながらも手脚はバラバラに動いて


どうしやうもなく、自分で自分の体は自由にならないのだと、さう考へたことで、体が軟体動物のやうで、まるで自分が蛸か何かになつたかのやうでした。勿論自由とか不自由とか軟体動物とか蛸といふ言葉は後年に覚えた言葉で、この沈黙の中に浮かんで来た言葉は文字でも音声でも表すことのできぬ言葉で、しひていへばカタカナで表す以外にはないだらうといふ言葉です。このやうに書いてみれば、肉体が先にあつて言葉が後に生まれるといふふうに誤解されるかも知れないが、さうではない。これらは同時にすら生まれぬ。私が立ち上がりた意志したこと、体のバラバラな動きの統制のとれぬ不自由と、このバラバラといふ差異から生まれたカタカナで日本語の文字で表す以外にはない、この言語以前の言語（ゲーテやトーマス・マンならば原言語・Urprache・ウルシュプレーヘといつただらう）のことは時間の因果に無関係にある、即ち存在してゐる。存在とはこのやうな概念である。ドイツ語ならばsein・ザインであるが、これが時間の中で私が体を起こして立ち上がるにつれて、ich bin, du bist, er istとseinは変形する。これは単数であるが、複数ならばwir sind, ihr seid, sie sindといつたやうに主語も動詞も姿を表して変形する。これで、私たちが普通とさう思ひさう呼んでゐる現実・うつつ・今もまた、何かの変形した結果としての最初から姿であると知ることができる。即ち、私たちの世界は何かニュートラルなもの、即ち存在・sein・ザインの、もつと抽象的にいへば最初から何かの変形したものである。と、さう考へることができる。この時間の中で変形したものがdasein・ダーザインであり、それは人ならば人間と呼ばれ、一人ならば個人と呼ばれる。ここから先は安部公房のトポロジー、即ち接続と変形の数学的形象の世界です。勿論、生まれて数ヶ月の50センチの赤ん坊がこんな日本語やドイツ語で考へたのではない。これらは全て後年ならひ覚えた言葉で語つてゐるに過ぎません。従ひ、ここに既にズレがあり、差異がある。この差異とは時間的にみれば遅延であり（遅延でありますから既に実は過去ですらない、過去などないのです、常に今である中今である）、合間であり、空間的にみれば隙間であり、狭間である。これは50センチの赤ん坊の言葉ではないが、今語ればさうであるといふことです。実際の経験の内容は、四肢の動きの感覚と密接に結びついてゐるので、そもそも言語を絶してゐるので、本当はあなたに生々しくそのままのことを伝えることはできない。即ち言語自体が差異であり、差異の集合である。そして、何かを伝えるためには媒介・媒体・メディアを必要とする。それが、差異である言葉であり（言葉の意味とは差異也）、そして此の差異の集合である言語です。これが、このやうな私の経験に徴しても、人間の意図的な発明によるものだと考へられない。さうであれば、言語は自然に生まれて来たといふ方がまだ論理的であり、むしろ自然である。とすれば、言語は自然の一部であり、山川草木悉皆コトのハであり、コト・タマである。言葉といふコトのハ・端・葉が、何故球体であり球形であり、タマ（玉・球・珠・弾）の形象であるのかは後述します。言語が差異の集合であるならば、言語の体系は差異の体系であり、このコト・タマもまた体系であれば差異の体系であるといふことになります。この差異の最小単位がコト・タマ

であり、これを物的に表したのが勾玉で、確かにこれは一対になつた、たとへば男女の差異であるが、他方この二つの思ひを一つに結ぶものであり、二つのモノを結ぶ玉の緒である。空間の中では物事は歪むので、タマもまた曲がタマと呼ばれる。差異とは空間的には連続量であれば歪みであり、曲りであり、曲げである。太古・古代の日本人は、当たり前であるが確かな宇宙観を持つてゐて、さう名前を付けたのである。私たちがその宇宙観を忘れてゐるのである。記紀万葉を読むとは、これを想ひ出すといふことです。自分の知能と自分の都合で読んでではありません。

高天原の天津神の内の第一層の五柱の神々と第二層の二柱の神（国之常立神と豊雲野神）が、何故現れると即座に隠れて、性が分化せぬままに、即ち差異にならぬまま、従ひ中性・ニュートラルのままに独神・ひとりがみと呼ばれるのか、これが理由です。これで、これらの中性の神々が、西洋哲学用語でいふ存在・sein・ザインであることが理解されるでせう。Seinの文法学的解説は、これは名詞としては中性名詞であり、動詞としては不定形・infinitiv・インフィニティーフであり、やまとことばでいへば、限りなきものであり、漠心でいへば無限定なるもの、定義されてゐないものである。この言葉の名詞であり且つ動詞であるといふ一語の根本的な性格を有する言葉は、どの言語ももつてゐます。老子といふ哲学者は、道といふ言葉を動詞と名詞で同じ箇所使ひ分けて見せて、読者に道が存在であることを示してゐます。私たちは名詞としての此の文字をミチと呼び、動詞としてはこれをイフ（言・云）とふやまと言葉にあててゐます。ですから、高天原の隠れる神々、または神々が隠れるといふ論理的事実は、日本列島と日本語の外部にも通用する普遍性を備へてゐるのです。

天井の棧の話は、このやうに芋蔓になつてゐます。これを一筆書きといふこともできます。次は一筆書きの、即ちトポロジーといふ数学の図形の話です。何故かうなのかの説明は出来ませんが、天井の棧を数へることの繋がりにあることは理解することができます。隙間と接続・結びの話であり、差異と結びの話です。この衝動は、学制の区分区分に応じて、小中高の三回私を熱中させる衝動として私をいつも或る一定の期間捕へて離さなかつた。学校から帰ると恰も熱病に罹つかのやうに一心不乱に次のやうな一筆書きの迷路を白紙に描くのです。この紙は白紙であれば良いので、新聞に挟まつてゐる広告の裏でも、何かの紙の余白でも良い。かくなれば、確かに私は、安部公房の描く箱男である。

今描いてみた一筆書きの迷路を掲げます。これは、太古・古代のケルト民族や縄文人や、その他世界中に遺跡として残つてゐる岩石文明の岩の表面に刻まれてゐる凸凹の一筆の図形であり、渦巻である。殊に私たちにとっては縄文土器の凸凹の一筆の様です。一筆書きとは、再帰性を自然であるとして大切にす思想でありますので、これを絶対的に肯定しますが（これが縄文土器の形象の示す思想です）、これに対して一神教は再帰性を絶対否定します。前者からみれば後者は誠に倒錯した



もぐら通信

世界に見える。一筆書きの世界ではないといふことです。初めに最後が戻らず、生活の中にメビウスの環がなく、クラインの壺もない。単に直線の線上に物事が並んでゐる世界です。余り説明し過ぎてはいけない。今描いてみた一筆書きの迷路の渦巻を示します。

サンチョ・パンサを求めて

(12)

お注射記念日2

安部公房のお注射記念日

岩田英哉

安部公房が日本共産党に入党して二年と立たないうちに其の正体を見抜いたのは、自分の言語能力を壊されるかといふギリギリの限界にまで苦しんで堪えてのことであるといふ話は『安部公房と共産主義』（もぐら通信第29号）でお話した通りです。

この安部公房の人生最悪の歳が1953年でした。この無残な歳の翌年、1954年6月30日に『思い出』（全集第4巻、312ページ）と題して、自分の見た夢の話を書いております。これが誠に今象徴的な意義を有することには、世界中の子供が一斉に大人になるための注射をする話なのです。しかし勿論、安部公房は超越論的人間であるからして、そんな注射はしないわけですが、これが誠に暗示的な夢の話なので、ご紹介したい。いふまでもなく、超越論者には何々記念日なるものは如何なる場合にも、公にも個人的にも一切、ない。

安部公房が超越論的人間であるといふ意味は、安部公房少年は学校に行くのが嫌で嫌で堪らない。とは、書いてるないが、さうに違ひない。といふのは、次のやうな話であるからです。この話は全集見開き2ページにはとても満たない短文です。しかし、その分だけ安部公房の世界の本質が凝縮されてる。この話は次の三つの部分からなつてゐる。序破急といつても良い。勿論、安部公房は夢といふ脈絡のない出来事を文字にしてゐるだけで、こんな形式を考へた訳ではないことは、エッセイ集『笑う月』の読者には自明でありませう。しかし、確かに安部公房らしいのは、最初と最後に同じ一行を配して、その間・隙間に此の夢の話をして「思い出」と題して入れてゐるといふことです。即ち、このことによつて既に最初から、この話は存在の話なのです。これを、従ひ変形させれば時間の中で幾らでも小説が生まれる。三頭だての荷馬車が走つてゐるので、これは大陸の奉天であるとさう思つてお読みください。即ち、舞台は日本国内では既に最初から、ない。

- (1) 第一段落：子供の安部公房が馬車と一緒に必死になつて走つてゐる。
- (2) 第二段落：学校の前で馬車から離れることができ、教室に入ると其処で起きてみた、同級生が誰もゐない話。
- (3) 第三段落：小使が、そして両親が出てきて、安部公房にお仕置きをする話。

(1) 第一段落：子供の安部公房が馬車と一緒に必死になつて走つてゐる。
この段落を全文引用します。私が説明するより読む方が早い。

「白い砂ほこりの中を、三頭立ての荷馬車がコトコト進んでいた。いや、コトコト

鳴っているのは車のそばにつつた黒い油壺で、馬車はギイギイほとんど悲鳴にちかい、叫び声をあげていた。馬車夫が五メートルもあるムチをふりあげて宙をうつたびに、その先が私をすれすれにかすめた。しかし私は馬車から離れることができず、どこまでもいっしょに並んで歩いた。恐ろしきで、私はいくどもシャクリあげた。」

もうこれは『（霊媒の話より）題未定』の時から表立つては明らかなやうに、安部公房の文章の特質をよく表してゐます。コトコトもギイギイもシャクリあげるのも音の繰り返して、これが呪文であることは既に個別の作品論でも、シャーマン安部公房の秘儀の式次第と名前をつけて、お話して来た通りです。ムチもまた何度も繰り返し音を立てて宙を打つ筈です。

「車のそばにつつた黒い油壺」といふのも、移動体に付いてゐる凹の形象で、安部公房の好きであつた自動車運転ならば、前進しながら、しかしバックミラーに映る後方の映像といふことに論理上はなるでせう。この壺は初期安部公房の『詩人の生涯』にもユーキッタン、ユーキッタンと呪文を唱へる「三十九歳の老婆」のジャケットを織る機織り機についてゐる「胃袋のかっこうした油壺」と同じ壺です。この短編小説は1951年の作。この「胃袋のかっこうした油壺」もまた凹の形象であり、襞々の面であり、それが袋状になつてゐるといふ、これは何か意図的にと何かを狙つてとかいふのではなく、安部公房といふ少年に生来の生理と論理の不可分の結晶した形象であるといふ以外にはありません。安部公房は言葉を何か他人事のやうに使ふことのできる普通の人間ではないのです。さう理解する以外にはない。

「三十九歳の老婆」の油壺は機械を休ませぬ目的のために差す油を入れて補充をするわけですが、この荷馬車にぶら下がつてゐる油壺は、さうして見ると、荷馬車が永遠に走り続けるための油壺だといふことになります。それで、しかも安部公房少年は既に奉天の町で此の時幼くして超越論者ですから、どうしても何事にも遅刻をし遅延をし遅れてしまふし、さうすれば教師には叱られ、家に帰つては親に叱られる。そんな子供が理由もわからずに、気がついたらそんな永遠に走り続ける荷馬車に遅れずに並んで歩くなどといふことは、まさしく地獄である。安部公房の全ての主人公の内心が、これです。だから、安部公房の小説はいづれもどうしても地獄巡りの話になる。初期安部公房作品にもダンテが何度か出てくるのは、この故です。

さて、安部公房少年は、これも理由なく、学校の門前で馬車から離れることができたのが第二段です。安部公房少年にとって、門とは常に鬼門である。老子の門は森羅万象の出入りする門であり凹であり隙間であり合間であるが、安部公房少年の門はいつでも自分が吸い込まれて戻って来ることのできないブラック・ホールである。大人になつても、50を過ぎても、安部公房はこの森羅万象の出入りする門に吸い込まれるのです。安部公房は後期20年の人生を共にした恋人山口果林にかく語りき：

「ただひたすら深夜の高速道路を走り続け、ブラックホールに飲みこまれてしまいたい気分になるとも言っていた。」（『安部公房とわたし』23ページ）

この経験は22歳の論文『詩と詩人（意識と無意識）』にも書いてある通りの、そして間違ひなく、安部公房の実際の複数回に亘る体験であるのです。『方舟さくら丸』なら、あの巨大なと形容すべき何でも噛み砕いて飲み込んでしまふ便器の形象です。あなたの好きな作品にも必ず登場する穴の形象です。穴と書くと文字に囚われますので、凹と凶形で表す方が良いかも知れません。

（2）第二段落：学校の前で馬車から離れることができ、教室に入ると其処で起きてみた話。

さて、教室に入ると、安部公房はすっかり遅刻してしまつてゐて、あんなに必死に荷馬車に合はせて来たといふのに、誰もゐない。以下本文です：

「学校の前で、やっと馬車から離れることができた。昼間でもうす暗く、廊下が油でぬるぬるしている学校のほうが、馬車よりももっとこわかった。ちょうど何かの始まりをつげるベルが鳴りひびき、私は鞆をおさえて駆けこんだ。しかし学校の中はひっそりとして、人影ひとつみえないのだ。早すぎて、まだ始まっていないのかと思い、教室に入って席にかけていると、廊下に面した窓が開いて、見知らぬ男がのぞきこんだ。見知らぬ男だったが、小使だということはその頭のかっこうですぐ分った。小使の顔は若いくせに皺だらけだった。おどろいて逃げ出そうとする私をつかまえて、今ごろなにをグズグズしているんだ、もうみんな注射をうけに出かけてしまった後だと、しかりつける。」

ここにある迷路のやうな廊下、安部公房の手にしてゐる鞆、「何かの始まりをつげる」開幕のベルの音、沈黙と静寂の空間、「早すぎてまだ始まっていないのかと思い」しかし既に遅刻してゐるといふ此の現実の何かの始まりと終つてしまつてゐることと主人公の遅刻の関係は『カンガルー・ノート』の冒頭にある、突然脛にカイワレ大根が生えて来て病院に駆け込んで経験する遅刻、即ち看板の診察時間通りに行つたのに既に予約の時間が過ぎてしまつてゐることと待機することと遅延した呼び出しをあゝ看護婦に受けることで始まるあの自走ベッドの上に寝たまゝの地獄巡りの旅といふこれらの関係にある行き違ひ（差異）と全く同じです。

また「顔は若いくせに皺だらけだった」小使は、『詩人の生涯』に登場する若い詩人の母親の「三十九歳の老婆」と全く同じことで、これが何かといへば、位相幾何学的に時間を捨象して表現した人間の姿だといつてもよく、安部公房の思ひ描いた典型としての人間である詩人の姿だといつても良いのです。これは、男を描かうが女を描かうがいづれにせよ、安部公房の自画像です。トーマス・マンならば、成長しない背虫の小男「小男フリーデマン氏」です。

「とつぜん私は思い出した。今日はみんなで大人になる注射をうけに行く日だった。今日かぎり、世界中の子供がみんな大人になって、もう子供はいなくなるはずだった。それなのに遅刻した私だけが取残されて、まだ子供でいるのだ。」

と、このやうに書かれてゐることは、安部公房の人生の現実であつて、「顔は若いくせに皺だらけだった」小使も「三十九歳の老婆」も、そして安部公房自身も、歳をとることがない人間なのです。こんな人間はどこにもゐないとあなたはいふでせうが、ゐるのです。子供の時代に既に年老いてゐて、二階の子供部屋に、玄関から入るのでもなく出るのでもない、時間的な差異を一挙に0にするために垂直方向に家を登つて上がり窓から出入りする人間です。S・カルマ氏が小説の最後に垂直方向といふ時間の存在しない方向に永遠に成長し続ける壁に変形する物語の結末を想ひ出して欲しい。

さて、この垂直方向へと永遠に成長する壁とは一体なんなのでせうか。『S・カルマ氏の犯罪』では、これは最後に主人公に下される罰であるといふことにみかけ上はなるでせう。しかし、それがさうならないのは、安部公房が文章を書く言語藝術家であるからです。自分を救ふ人間は「自分そつくり」の自分しかゐるのです。安部公房がその固有の話法「僕の中の「僕」」に向かつてだけ文章を書き続けて来た理由です。

(3) 第三段落：：小使が、そして両親が出てきて、安部公房にお仕置きをする話。

この段落の罰の話は、後年安部公房がロブ・グリエを例にして語る「消しゴムで書く」といふことの、この時代の安部公房の心理的負担に堪へる上での作家としての真情でありませう。この場合の心理的負担とは、現実と理想の大きな差異です。勿論、これは誰にでもあることです。安部公房も例外ではありません。例外的であるのはこれを如何に克服したか、どのやうな方法で問題を解決したのかといふことです。

「罰だ！と小使が大声で叫び、乾いた白い手のひらで私を打ちすえた。私は机にしがみついて許しを乞うた。しがみつくとき、ぬけめなく、机のいたずら書きを肘のかげにかくすことを忘れなかった。

ふと顔をあげると、前に両親が立っていた。両親はいたわりあうように、くつきあつて立っている。二人とも、レンズをとおしてのぞいたやうに小さな顔をしていた。私がなにかを言おうとすると、シッと唇に指をあて、おまえみたいな子供をもつて、ほんとにはずかしいよ、とうなだれて立去った。」

前の段でいはれてゐる小使、即ち「教室に入って席にかけていると、廊下に面した窓が開いて」顔を覗かせる「見知らぬ男」は、S・カルマ氏の場合ならば、多分緑

の服の男であり、『方舟さくら丸』ならば、これも多分箒隊の老人たちかも知れませんが。登場の仕方に強弱はあれ、突然理由もなく現れる見知らぬ人間です。あるひは『密会』にやはり前触れなく登場して主人公の前を走り過ぎる運動部員たちの一団といふやうな者たちです。これらの形象は、余り図式的には理解したくはありませんが、主人公の知らない、主人公にとっては常に外部である（何故なら主人公は常に現実の時間に対して遅延して生きてゐるから、否、逆に遅延によつて主人公は常に外部にゐるからといふ理由によつて出現する）何か世界といふか社会といふやうなものの代表者ではないかと思はれる。これらの人たちは命令することはないが、主人公に対しては何か不気味な姿として姿を現す。余りうまく説明ができたとは思ひませんが、そのやうに私は思ひます。

遅延するといふことが、常に此のやうな付屬的な、付帶的な、表立つてゐない人間による罰を受けるのです。老人の箒隊は死を持つて来る。上記の運動部員たちもまた、一見生命に溢れてゐるやうに見えてさうではない。遅延の中では一過性で過ぎて去つて行つてしまふ何かです。ですから、これもお別れの姿であり、別れることが主人公との關係である。これが、安部公房の読者の人生観です。

最後にこの少年が「鞆の中から商品にもらった一本の鉛筆をとりだし」て、これが「運動会するとき一番ビリになつてもらったもの」であり、「だから、賞品というよりむしろ罰というべきものだった」といふのは、安部公房のこれも実感であらうと思はれる。私はまたしても『箱男』に挿入されてゐる写真の一葉の下に置かれた次の詩を想ひ出します。

「走りつづけたが
追いつけなかつた人々の
賈のゴール
旗は振られ
審判も観客も
とうに引揚げてしまった
夜の競技場」

この『思い出』に即していへば、安部公房は、この詩を、「私はその鉛筆を一心にそぎだした。しかし中でシンがばらばらになっているのか、けずるはしから折れてしまった」その鉛筆で書いたことになります。消しゴムに変形した鉛筆で書いたといふのは、如何にも安部公房らしい。

いふまでもなく、この夜の競技場の詩の上にあるのは、黒く葬儀の写真のやうに太い黒縁で縁取られたトラックたちの廃棄場の写真です。この無機物が人間といふ有機物の死体であつても一向に構はない。ここまで来ると、『箱男』の最後から二つ目の章に書かれてゐる無題の最後の連の意味もよく、私たちには解ります。

「だからいつも世界は
一周進みすぎている
彼が見ているつもりになっているのは
まだ始まってもない世界
幻の時
針は文字盤に垂直に立ち
開幕のベルも聞かずに
劇は終わった」

この垂直に立つ針の上を上昇して行き、開幕のベルも聞かずに終はる劇をあなたは
演じてみると私は思ひますが、あなたは如何思はれるか。

いふまでもなく、この詩の彼とは、あなたの「僕の中の「僕」」のことです。

縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(16)

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

5.9 日本位相習合史

5.1.0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.1.1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

5.1.2 縄文土偶とは一体何か

5.1.3 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

5.1.3.1 位相史のための紀元の分類

5.1.3.2 淤能基呂島とは何か

5.1.5 縄文土器とは何か

5.1.6 大祓へを読み解く

5.1.6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.1.6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.1.6.4 八の音義は何を意味するか

5.1.6.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

5.1.7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1.8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2.0 日本人はどこから来たか

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1 8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1 9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2 0 日本人はどこから来たか

目次

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか

- A 箱根神社の三柱の御祭神の名前
- B それでは、瓊瓊杵尊は一体どこから天下つて来たのか
- C 最初の瓊瓊杵尊は、何処からミコトを持ち運んで来たのか
- D 何故日本の国は古事記と日本書紀といふ二種類の書物を必要としたのか
- E カミとミコトとヒトの違いと同じであることについて
- F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立
- G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ（90万年）は何を意味するか
- H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか
- I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論
- J 道元禅師の超越論
- K 親鸞聖人の超越論
- L 八岐大蛇とは何か
- M カミとは何か再説
- N シロシ・召すとキコシ・召す再説
- O 大祓に書かれてゐる場所はどこのような場所であるか
- P 日本語の音義とひらかな・カタカナ・漢字の関係
- Q 国学言語論と欧米言語学の関係

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか（5）：K 親鸞聖人の超越論



Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

あふぐなら いぶきどのかみ ゐたちなむ たれもかれもが みなかみがゆゑ



編集後記

- 巻頭詩（21）時間彫刻機製作のための《世界の果て突破方程式》：安部公房の、読者には長年の謎であつた方程式を解きました。これは詩です。
- 周辺飛行（45）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行43と44：藤野君のこと：これも解読できてよかった。引き揚げ船の中で『天使』を書きそめてみた時の船中体験といふわけです。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（15）：9。夏目漱石の塔（F+f）と安部公房の塔 \rightarrow （F x f）（1）：これも漱石と安部公房の関係を論ずるのに、日本文学史の観点から一石を投じたものかと、さうあれば嬉しい。
- 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 42
- ネット・モナド論（19）：7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか：国家とは何か。都市がどこに位置してゐるのか。極左・共産主義者とグローバリストとは話が通じまへんな。といふ理屈がわかってくださると、この回は成功です。やれやれの碌でもない時代です。
- Mole Hole Letter（58）：超越論 II（第一回）：超越論などは日本にあつては当たり前すぎてそこら辺にダイヤモンドの原石みたいにゴロゴロしてゐるのだと云ふことを知って欲しい。あなたの中にあるのです。そしてすぐ隣に、足の下に。尻の下にも。
- サンチョ・パンサを求めて（13）：お注射記念日2 [安部公房のお注射記念日]：これも安部公房らしい思ひ出話です。今のご時世にぴったりと思ひましたので、取り上げました。この時、安部公房は苦勞のどん底であつた。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（16）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：K 親鸞聖人の超越論：岩田英哉…page 50
- Topologyで日本の文化を解説する：内なる境界シリーズ（12）：扇：岩田英哉…page 52

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。